

平成27年6月23日

智頭町議会議長 谷口雅人様

行政評価システムの導入にむけた
特別委員会

委員長 酒本敏興



行政評価システムの導入にむけた特別委員会調査報告書

本委員会に付託された調査事件について、調査の結果を別紙のとおり、会議規則
第77条の規定により報告します。

1. 調査事項

- 1) 行政評価システムの目的・推進体制・活用方法に関すること。
- 2) 智頭町に相応しいシステムの構築に関すること。

2. 調査の経過

1) 委員会開催

本委員会4回、小委員会5回、計9回実施

2) 小委員会による先進地視察調査

大阪府泉佐野市「泉佐野市議会」における行政評価制度

3. 調査の概要

本町は、地方分権時代に対応するため「自立と持続」を旨とする新しい町づくりを進めている。そのためには、事業の選択・重点化と財源の有効配分、創意工夫が必要であり、総合計画や行政改革において「行政評価システム」の導入に取り組むことが必要であると判断し、議員全員で検討する特別委員会を設置し、本町に相応しい評価システムの構築を目途に協議を重ねた。

また、評価システム導入を共有するため、行政との協議も並行して実施した。

4. 調査の結果

実行手段である各事務事業に対して、住民ニーズへの的確な対応などを今まで以上に精査し、効率化を図らなければならない。最小のコストで最大の成果を得るためにも、やはり行政評価制度の導入は必須であるとの判断に至った。

また、行政評価制度が行政マネジメント(経営管理)として位置づけられることが必要である。

なお、予算編成においても議会政策提言が更に活用されることを行政に提言したい。

5. 添付資料

- 1) 智頭町議会における行政評価実施要綱
- 2) 智頭町議会における事務事業評価シート(議員・常任委員会)

智頭町議会における行政評価実施要綱

1, 意義

・議会が独自の事業評価を行い、その問題点を明らかにし、行政側に次年度事業に於いて反映させることは、議会本来のチェック機能を発揮するものである。併せて、議員個々の決算に対する取り組み姿勢や議員個人の知識向上などに大きく寄与するものであり、さらに、評価結果の公表は、議会から町民へ情報発信として大きなインパクトをもつものである。

2, 目的

・智頭町議会基本条例第7条第2項及び第19条に基づき、議会による行政評価を行い、町の執行機関の活動を監視、評価することにより、適正な行政運営の確保に努める。

3, 基本方針

・「議会政策提言」等に対する町の子算措置事業を評価対象事業とし、町が実施した政策、施策、事務事業について、妥当性、有効性、効率性の視点から評価する。

4, 実施計画

(1) 基本的な考え方

- ① 行政評価は、各常任委員会（総務・民生）における「閉会中の継続調査・審査」として実施する。

(2) 具体的な取組

- ① 評価対象事業を8月に選定し、執行部から成果説明を受け、各常任委員会（総務・民生）の議員が事業評価シートにより評価を行い、委員会で意見集約を行う。
- ② 事務事業評価一覧表を作成。評価結果を町長に提出する。
- ③ 行政評価結果を踏まえ、議会として次年度予算編成に向けた政策提言を行う。

智頭町議会による事務事業評価シート(議員)

	作成日	
評価対象事業名	議員名	
事業番号	所属	常任委員会

事業の評価(4段階評価)

項目	評価	評価内容			
		理由(該当する項目を3段階で評価)	○	△	×
		(○)良好、すべき (△)どちらとも言えない (×)不良、すべきでない			
妥当性	4段階評価	I 社会情勢からみて、行政で実施すべきか			
		II 住民ニーズや総合計画に適應しているか			
		III 事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か			
有効性	4段階評価	I 期待した効果は得られているか			
		II 事務事業の目標は達成できているか			
		III 総合計画の目的達成に貢献しているか			
効率性	4段階評価	I 効率性を考えた時、実施方法は適切か			
		II 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか			
		III 事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か			
総合評価 (3項目の平均) 【小数点1位】 【四捨五入】		(事業の総合評価に対する特記事項及び今後の方向性の理由)			

今後の方向性 (選択項目に○)		拡 充
		現状のまま継続
		見直して継続
		休止・統合
		廃止・完了

評価指標	
4	適 切
3	概ね適切
2	改善の余地がある
1	廃止を含めた見直しが必要

※「単年度事業」以外は、その理由などを総合評価に対する特記事項欄に記載

智頭町議会による事務事業評価シート(常任委員会)

評価対象事業名		事業番号
所管常任委員会	常任委員会	

事業評価の集計(議員個人が行った4段階評価の平均)

項目	評価	評価内容									
		理由(該当する項目を3段階で評価 : 評価議員数を表示) (○)良好、すべき (△)どちらとも言えない (×)不良、すべきでない									
妥当性	4段階平均	議員	A	B	C	D	E	F	6議員の評価計		
		評価							○	△	×
	理由	I 社会情勢からみて、行政で実施すべき事業か									
		II 住民ニーズや総合計画に適応しているか									
III 事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か											
有効性	4段階平均	議員	A	B	C	D	E	F	6議員の評価計		
		評価							○	△	×
	理由	I 期待した効果は得られているか									
		II 事務事業の目標は達成できているか									
III 総合計画の目的達成に貢献しているか											
効率性	4段階平均	議員	A	B	C	D	E	F	6議員の評価計		
		評価							○	△	×
	理由	I 効率性を考えた時、実施方法は適切か									
		II 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか									
III 事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か											

()常任委員会総合評価

総合評価 (3項目の平均) 【小数点1位】 【四捨五入】		理由
		附帯意見
		今後の方向性

今後の方向性 (選択項目に○)		拡充
		現状のまま継続
		見直して継続
		休止・統合
		廃止・完了

評価指標	
4	適切
3	概ね適切
2	改善の余地がある
1	廃止を含めた見直しが必要

※「単年度事業」以外は、その理由などを総合評価に対する特記事項欄に記載